

教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点

【評価の観点】

- 実際のコミュニケーションにおいて、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用できる技能を身につけている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で簡単な情報や考えなどを理解し、活用して表現したり伝え合ったりすることができる。

- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いて、コミュニケーションを粘り強く行おうとしている。

【評価の方法】

- 定期試験、小テストによる評価
- ノートやワーク、課題プリントによる評価
- パフォーマンステスト(英会話)による評価
- 授業中の観察による評価
- 生徒自身による自己評価

特色ある学習方法

- 授業形態に変化をつけ、生徒一人一人の学習意欲を高めるとともに、学習内容の確実な定着を図る。
- ALTの生きた英語に触れる機会を多くし、常に実践的な言語の使用場面を想定して指導することで、実践的コミュニケーション能力の育成につなげる。
- 視覚的教材を利用し、理解を深めさせる。

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・過去形や過去進行形, There is [are] …の意味用法を理解し、春休みの思い出について表現する。(話すこと) ・be going to や助動詞 will, SV00, SV0C の意味用法を理解し、理想の海外旅行について表現する。(やりとり) ・接続詞 when, if, that, because の意味用法を理解し、おすすめのレストランに」について表現する。(話すこと) ・不定詞を用いた文の意味・用法を理解し、A I に関する自分の考えを表現する。(書くこと) <ul style="list-style-type: none"> ・自己分析をもとに将来の夢について既習事項を用いて表現する。(書くこと) ・Reading ・Listening 	<ul style="list-style-type: none"> ○各ユニットに適した領域に焦点を置き5領域の能力を総合的に伸ばすことができる。 ○ALTとの対話やALTによる添削を重ね、リアルなコミュニケーションをおこなう。 ○英語を通して視野を広げる。 ○自分の意見を表現できる。 ○友達の見解を受け入れることができる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・have to, 助動詞 must, 動名詞の意味用法を理解し日本の生活文化について表現する。(やりとり) ・〈疑問詞+to〉や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の意味用法を理解し自分のしてみたいことについて表現する。(話すこと) ・比較の意味用法を理解し最適な交通手段について表現する。(書くこと) ・クラスで人気のあるものについて調べ発表する。 ・Reading ・Listening 	<ul style="list-style-type: none"> ○各ユニットに適した領域に焦点を置き5領域の能力を総合的に伸ばすことができる。 ○ALTとの対話やALTによる添削を重ね、リアルなコミュニケーションをおこなう。 ○英語を通して視野を広げる。 ○自分の意見を表現できる。 ○友達の見解を受け入れることができる。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の意味用法を理解し行ってみよう世界遺産について表現する。(書くこと) ・自分の町のおすすめについて話すことができる。 ・Reading ・Listening 	<ul style="list-style-type: none"> ○各ユニットに適した領域に焦点を置き5領域の能力を総合的に伸ばすことができる。 ○ALTとの対話やALTによる添削を重ね、リアルなコミュニケーションをおこなう。 ○英語を通して視野を広げる。 ○自分の意見を表現できる。 ○友達の見解を受け入れることができる。